

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和5年度・第6回）議事概要

日 時 令和5年（2023年）10月11日（水）14:00～16:00

場 所 宝塚市役所 第2庁舎 1F 会議室A・B

出席者

<まちづくり協議会>

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	綿 昭人会長	●	
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明副会長	●	
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長	●	
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	
まちづくり協議会コミュニティ末広	豊田 茂男代表	●	
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	山本 敏晴会長	●	
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	
宝塚市すみれガ丘小学校区まちづくり協議会	押条 雅英代表	●	
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 毅会長	●	
売布小学校区まちづくり協議会	岡田 英里副会長	●	
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長	●	
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	安達 みづほ代表	●	
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長		
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	

<その他>

市民交流部 加藤部長

市民交流部きずなづくり室 浅井室長

市民協働推進課 新城課長 岡田係長他

都市安全部生活安全室 江崎室長

公園河川課 雑賀課長、大崎係長、児玉職員  
宝塚NPOセンター 平岩氏、馬越氏  
宝塚市社会福祉協議会 前菌課長、松原氏  
傍聴者 なし

## 議事概要（要旨）

### 1. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和5年・第5回）議事録の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、修正後、ホームページへ公開することが承認された。

### 2. 「宝塚市パークマネジメント計画等」の策定について（公園河川課）

公園河川課より、標記の案について、配布資料に基づいて説明があり、以下の通り、質疑応答があった。

ア 公園区とはどういう意味か。モデル地区以外の19地区は何をするのか。

イ 「公園区」とは、小学校区を単位とし、近隣の公園で機能が重複しているものについては公園ごとに特色をだして、公園区全体でいろんな魅力を出していくというもの。参考に先行事例として練馬区を見ていただければと思う。残り19まち協は公園の適正配置は出来るのではないかと個人的には考えている。なお、モデル公園区では、公園区の中で適正配置だけでなく、公園区の中での今後の管理の体制や遊具等にまで検討したい。

ウ 残りの19まち協についても計画案はつくるのか。

エ （市）（残りの19についても、）計画案は作る。概略案と考えていただければよい。

オ パークマネジメント計画はやらなくてはいけないのか。今の公園のままでは何が問題なのか。これから公園がどう変わっていくべきといった考えはあるのか。

カ （市）パークマネジメント計画があるべきかについて、計画を作ったうえで今のままでいいという結果になることは否定できない。パークマネジメント計画を策定する目的は、近い公園に同じ機能が集約しており魅力がないということに対し、公園ごとに個性、魅力を出していくことで公園の利用者の満足度が上がるのではないかと考えている。

キ （モデル地区の）1箇所は色々な形ができるだろうが、残りはどうなっていくのか。

ク （市）今年度から3か年かけて20あるまち協のうちの一つをモデル公園として試行錯誤し、成功例を作ったうえで、令和8年、9年度以降全まち協の公園区を詳細にやっていきたい。

ケ モデル地区の進捗状況をその他まち協に定期的に報告してほしい。

コ （市）承知した。

### 3. ポータルサイトブログの閲覧状況について

市民協働推進課から配布資料に基づいて説明があり、投稿数、閲覧数の上位5まち協が紹介された。

### 4. 地域活動について

#### (1) 「魅力的・特徴的なまち協活動」(多様な時代の参加につながった事例、負担軽減・事務効率化を図った事例等)についての紹介・質疑応答(山本山手)

【山本山手コミュニティ】

(発表)

ア 山本駅から続く一本の道路で、ここ1、2年事故が多発しており、コミュニティの間で議題として取り組んできた。市に相談して舗装修繕工事をし、2023年2月の工事以降は大きな事故は起こっていない。今後もこの件は注目して地域の安全についてコミュニティでも考えていきたい。

イ 山手台中学校の生徒が通学路として利用しているあじさいロードがある。本来は水道局の点検用道路で生徒が近道として使い始めたが、道路としては不完全で、道路を安全に使えるように20年くらい前から地域の大人たちがボランティアとして活動している。毎年2回ほど中学生と一緒にあじさいロードの清掃をしている。地域も高齢化のため次の世代への引き継ぎが懸念となっている。若者には自治会、コミュニティ活動になかなか興味を持ってもらえない。

(意見交換)

ア 当地域と地形がよく似ている。以前は幹線道路の大きな溝に車が突っ込んでいた。溝に沿っていた植え込みを全部なくし、見通しを良くすると事故が無くなった。山の中腹にある地域は道路の改修によって改善されていくのだと、他の地域に当てはまるのか分からないが、報告する。

#### (2) (1)の他、地域活動についての情報共有・意見交換

特になし。

### 5. 地域ごとのまちづくり計画

#### (1) 「対話」「進捗管理」の仕組みについて

市民協働推進課より、配布資料に基づき、説明があった後、以下の通り、質疑応答が行われた。

ア 20のまち協は特色に応じてまちづくりをしているが、宝塚市のビジョンを知らされていない。「私の舞台は宝塚」というキャッチコピーは漠然としている。

各まち協に負担を要請するならばちっとビジョンを出してほしい。

- イ 同感である。市全体のビジョンがないのに各地域に色々作れというのは違うと思う。個別でやっても全体のまちに発展するかもしれないが、市全体でどう魅力ある宝塚市を作っていくかということが一番重要で、しっかり市にやってほしいと常々思っている。

## (2) 「推進シート」「対話シート」の状況報告

市民協働推進課より、配布資料に基づき、実施状況の報告があった。

宝塚小学校区まちづくり協議会の推進シート、安倉地区まちづくり協議会の対話シートが共有され、該当のまちづくり協議会から報告があった。

### 【宝塚】

- ア JR 宝塚駅周辺の渋滞は経済的な損失だと思っている。今回提案したのは 5～10 年のロングタームで考える大きなテーマだと思っている。まだ対話できていないが JR を地下化する考えで、宝塚駅の再開発にもつながっていくと思う。都市計画課、企画部門と協議をして考えていることを聴いてもらおうと思う。
- イ もう一つは、宝塚市の財政問題、宝塚市がもっと儲かるようにできないかという観点。農業用の貯め池として役目が終わった貯め池を有効活用するために 1 万何千㎡ある貯め池に企業の本社を持ってきて、宝塚市に税金を落としてもらうというもの。もう一つの考え方は、人口を増やすためにはどうすればいいのか。若者を宝塚市に連れてくるために大学の学部や専門学校を宝塚市に持ってくる。先ほどの貯め池を活用しても良いかもしれない。ロングタームな考え方だが、誰かがやらないとダメだと思う。

### 【安倉】

- ア バスの減便やルートの変更等について、要望を出している。それともう一点、適正な位置にバス停を持ってきてもらえれば、高齢化社会の中でバスの使用頻度も上がって来るのではないかと考えており、地道に取り組んでいこうと思う。

### 【意見交換】

- ア (宝小コミュニティと) 同感、今まで発表する場がなく心強く思っている。それも宝塚市のビジョン作りをやっていかないといけない、早くやってもらいたい。宝塚市に財力、知力が弱いと思う。市長にも話したことがあるが、阪急創業者の小林一三の構想があり、阪急がどうかはわかりませんが会社の力を借りてやっていくのがいいのではないか。日本のまちづくりで大学、大企業と連携して発展しているところはいっぱいある。阪急に宝塚市が呼びかけたら連携してもらえる可能性は高いのではないか。いずれにしても早くしっかりとしたビジョン作りをしてほしい。

## 6. 市民協働推進課からのお知らせ

市民協働推進課より、以下(1)～(2)について、周知を行った。

- (1) 会計担当者会の開催について
- (2) (※再周知) まち協代表者交流会ワークショップ「地域活動のデジタル化情報交換会」 出欠回答及び事前アンケートのご提出

## 7. 宝塚 NPO センターからのお知らせ

宝塚 NPO センターより、以下(1)について、周知があった。

- (1) セミナー「ニュータウンの再生を考える」のお知らせ

## 8. 宝塚市社会福祉協議会からのお知らせ

宝塚市社会福祉協議会より、以下(1)～(3)について、周知と依頼があったと共に、以下の通り、前回質問があった内容に対する回答があった。

- (1) 第49回 宝塚市社会福祉大会について
- (2) 令和5年度 年末年始地域ささえ愛活動助成希望団体募集について
- (3) ぼうむ vol.10 について

(質疑応答)

ア (社協(共同募金担当松原氏)) 前回、共同募金を財源にした配分事業のご案内をさせていただいた際、助成を使った団体の街頭募金への参加率を知りたいという質問をいただき、調べた。令和4年度は、赤い羽根募金、歳末募金あわせて16団体のうち9団体が街頭募金に参加された。また参加できなかった団体も、イベントで募金箱を設置したり、団体として募金をしたりとご協力いただいている。参加率もそうだが、使った団体にどう募金協力、参加してもらうか、使った団体がイベントをするときに共同募金が財源だとどうPRをしてもらうか、が長年課題といわれている。まち協の代表者で委員会に参加いただいている方もいるため、しっかり意見を取り入れながら共同募金運動を進めていきたい。

イ イベントでの募金は多くされていると思うが、街頭募金についても、必ずプレゼンや(配分が)決定したときに街頭募金へのご協力お願いしますとして、16分の9ではなく、16分の16であるべきだと思う。まち協は、もらってなくても街頭募金に参加している。恩恵を被っているのであれば、強制的に出ていただくというのが私の考えだが、その辺ご検討をお願いしたい。

ウ (社協) 助成を受けた団体には参加お願いしますと伝えているが、条件までには至っていない。助成金を使ってなくても参加いただける団体もあり、助成を受けた団体への呼びかけは必要だと思っている。

## 9. その他

- ア (市民交流部加藤部長) 議事 5 でご意見のあった阪急阪神ホールディングスとの連携について、市としても、連携を強めていく方向で、包括連携協定を締結し、職員派遣を行うなどしている。
- イ 阪急阪神 HD は西宮市等も提携しており綱引き状態。例として、阪急阪神百貨店の軽トラックが 2 か月に 1 回、限定のお菓子を持って売りに来る取り組みが 4 月から始められた。非常に好評だが、宝塚市の 3~4 箇所しか回っていない。

## 10. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の開催予定について周知があった。

以 上